

編集：山田浩司&美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

祝新世紀！ 突然ですが、またニュースレター始めます。

早いもので、私がワシントンに赴任してから2ヶ月が経ちます。仕事の上では、現在1つの山を超えたところで、今迄は何はともあれ目の前の仕事が最優先でしたが、これから暫くは、日常の仕事をこなしつつも、少しずつ出向先の世界銀行のことを学んでゆきたいと考えているところです。

また、プライベートでは、11月12日にようやく新居に入り、すぐに中古車を購入して、運転免許証取得の手続きも進めています。船便で送った家財道具が12月上旬にようやく我が家に届き、12月15日にいよいよ家族も到着します。

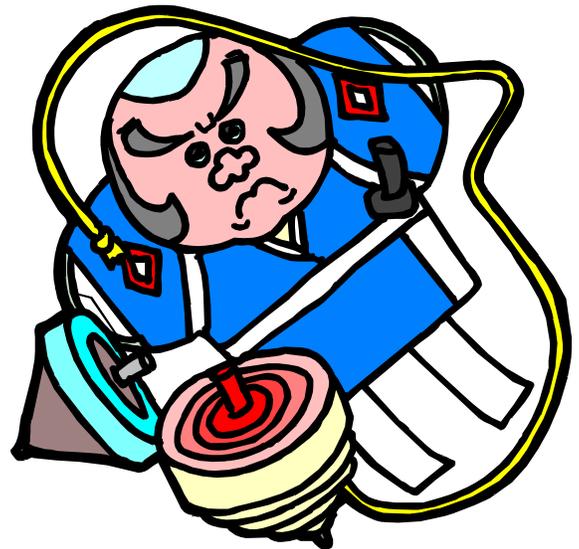
以前勤務していたネパールとは事情が異なり、米国の諸手続は殆どが自分でやらねばならないものばかりで、慣れない英語に苦労しながらも、なんとか家族を迎えるところまでこぎ着けました。先はまだ長く、やらねばならないこともまだまだ多いですが、有意義な2年間となるよう頑張りたいと思います。

ネパール事務所在勤時に、美澄と2人でニュースレターを毎月作成していたのを覚えていらっしゃいますか。お手紙を頂戴する方ひとりひとりに近況をお知らせするのも大変なので、近況をまとめて月1回のニュースレターにして、簡単なメモと一緒に郵送しようと思ったのがきっかけでした。

今回も、少し生活に余裕も出てきたので、またニュースレターを始めようと考えております。子育てに追われる今回は、余計に皆様への便りをしたためて近況をご報告する手も鈍りがちになりそうです。それだけに、ニュースレターだけはきちんと作成して、近況報告とさせていただきたいと思っております。新しいタイトルを考えるのが面倒だったので、ネパールの時と同じ「サンチャイ通信」を使わせていただきます。「サンチャイ」とは、ネパール語で「元気」を表わします。

見るもの聞くものが全て新鮮だったネパールとは異なり、アメリカの場合は日本でもニュースで取り上げられることが多いので、あまり興味深い出来事を紹介することは難しいかもしれませんが、楽しいネタを拾ってゆきたいと思っておりますので、よろしく御愛顧のほどを。

(12月5日、浩司記)



取りあえずは我が家の紹介から

どんな形での海外赴任であれ、最も急を要するのは住居である。住居が決まらなると安心して家族を家に残して出勤することは難しいし、DC（首都ワシントンのこと）の博物館といった観光地巡りに出かけようという気にもならない。それなのに、なぜか首都近辺のマラソン大会には10月末から結構出場しているのは、こちらの大会種目が5kmから5mileの中距離が中心で、午前10時にはゴールしているケースが多いからである。

入居までの道のり

家のことはかなり心配だったので、家族は東京に残し、10月12日に到着して最初の週末は、集中的に各地のアパート（日本的に言うところの「マンション」）を見て回った。最初からバージニア州側に住もうとある程度は決めて、通勤に使う地下鉄の乗車時間が15分程度までのところにターゲットを絞り、各駅の周辺のアパートを10件以上見たが、2ベッドルーム（BR）のアパートで空室があったのは11月上旬から入居開始の1件だけだった。そこは立地は悪くなかったため、取りあえず入居申請手続きだけ済ませた。

本当はそれだけでも良かったのであるが、子供2人で2BRではお客様も泊められないので少し狭いという懸念がなかなか消えず、さらに物件探しを続けた。着任2週目に参加した世銀の新入職員オリエンテーションで、社内ネット上で世銀関係者間で家具等の売買を行なうための掲示板が閲覧できることを知り、ある日何げなくそれを閲覧していたところ、駅から歩いて5分程度の場所で、一軒家のテナントを募集している記事が目にとまり、実際見せてもらってもう一目惚れしてしまった。

大家は米国国務省職員で、現在ブルガリアの米国大使館勤務とか。築30年前後は経過しており細部ではかなりほころびも見られるが、立地的には最高で、4人家族には適当な広さ。加えてお客様にも泊まっただけの部屋も確保でき、家賃も先に申込んだアパートよりも100ドル以上安い（と言っても月1800ドルで公共料金は別だが）。通勤には35分程度である。

他にも入居を希望した人がいたらしいが、幸い大家はより早く入居ができる私の方を選んでくれたので、先のアパートの申込みはキャンセルして、前のテナント（これもまた国務省職員で、モスクワの米国大使館への赴任だとか）が退居した1週間後の11月12日、めでたく入居を果たした。

「めでたく」と言う前に、ガス、電気、電話（それも域内電話会社と長距離電話会社で別々の手続きが必要だった）、上下水道と、かなり手続きには苦労した。¹ また、入居後も、ケーブルテレビ敷設の際のトラブルや、オートロックで閉め出しを食って地下室のガラス窓を割って家に入った話とか、ネズミもとの格闘とか、いろいろとトラブルが発生したが、いずれ別の機会にご紹介しよう。

家族もお気に入り♥

12月15日に待望の家族呼び寄せが実現した。美澄は未だ新居のインフラの確認中ではあるものの、取りあえずは気に入ってもらえた様子。特に、米国開発援助庁（USAID）にJICAから出向中の藤江さん御夫妻に会って、我が家を「掘り出し物」とおだてられたお陰で、今では「大家よ帰って来るな。」²と祈る毎日である。

というわけで・・・

¹ 後で、我が家のあるアーリントン郡のHPをインターネットで見ていると、新しい住民が済ませなければならぬ諸手続きのチェックリストが掲載されたページがあった。電話番号や関連ページのリンクまで掲載されており、もっと早く知っていたらと後悔した。

² こちらの一般的な賃貸契約は、契約期間1年で、なおかつ大家の都合でテナントに退居を依頼する場合、30日前までにテナントに通達することになっている。大家は既に3年以上ブルガリアに在勤しており、今後1年以内に帰って来る可能性はかなり高い。このため、私も予防措置として、政府職員の引越しを伴う異動なら60日前でもわかっている筈だと主張して、この条項を「60日前」へと変更してもらった。

ご出張、ご旅行で DC エリアにお越しの際は、 **Quantico Street Guest House** にお立ち寄り下さい。

設備： ケーブルテレビ (CNN、ESPN、HBO 等)、衛星放送 (TV ジャパン)、冷暖房完備
ゲストルーム 1 室 (場合によっては、もう 1 室アレンジ可能)
食事付き (美澄の美味しい料理、浩司のシンプルな料理等、選択可)
ランドリーサービス有。日経新聞閲覧可。駐車スペース有。空港送迎有。
おもちゃ多数完備

宿泊条件： 子供のお相手を少々
日本からのお客様には、機内の週刊誌 1 冊を宿泊代として頂戴いたします。

場所： 2208 North Quantico Street, Arlington, VA 22205
* 地下鉄オレンジライン East Falls Church 駅下車、徒歩 8 分
* Interstate 66 から車で 1 分未満! (ダレス国際空港から車で 20 分、DC から 10 分)
* 静かな環境 (子供がうるさいのがたまに傷・・・)
* ジョギング&ウォーキング愛好家の方には、Curtis Trail まで徒歩 5 分
* ショッピング愛好家の方には、Tysons Corner まで車で 15 分

御予約： Phone&Fax: 1-703-241-0621 (マイナス 12~14 時間の時差をご考慮下さい。)
E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp (日本語可)

**山田みきお、ちさと以下、垢抜けしないファミリースタッフが、
皆様のお越しを手ぐすね引いてお待ちしております。**

あれもあり、これもありの新生活 (1) **憧れのアメ車**

私は 15 年前にアメリカに住んでいたことがある。当時はクライスラー社が経営難からなんとか立ち直った頃で、CEO のアイアコッカ氏の自叙伝がベストセラーになっていた。知人の運転でクライスラー社の「ニューヨーカー」というセダンに乗せてもらい、その乗り心地の良さに感激し、さらにシボレー社の 4WD 車「ブレイザー」に乗せてもらって、アメリカのオフロードを疾走するロマンに魅せられた。アメリカにまた来る機会があれば、絶対アメ車を運転したいと思った。

米国勤務の話を読んだ時、既に車はアメ車にしようと思い決めていた。そんな話をこちらに来て、日本車が異常に多い DC のアメリカ人学生にしたところ、「お前はアホか。」と言われてしまった。彼の車はホンダのアコードで、GRV に乗るのが憧れなのだそうだ。

日本車が多いのは、15 年前のルイジアナも一緒だったが、驚かされたのは、ミニバンの多さだった。15 年前といたら、フォード社が「エアロスター」というミニバンを発売したばかりの頃で、街であまり見かけることはなかったのだが、今ではミニバン大はやりという感じで、特にクライスラー系のドッジディーラーが扱う「グランドキャラバン」はそこらじゅうで見かける。

子供がいることを考えれば、実際の選択肢はミニバンしかないと考え、いくつかのディーラーを訪ねて中古車を物色した。グランドキャラバンは 3 列シートになっており、モデルによっては 2 列目の座席が 2 つともチャイルドシート内蔵だということで、結局すぐに乗って帰れる在庫があった Fairfax のドッジディーラーで購入することにした。

銀行預金残高があれば、手持ちの小切手帳で小切手 1 枚切れれば当日持ち帰りが可能である。日本と違い、保険は自分で手続を取らねばならず (ディーラーの保険は 2 日分しか効かない)、自分で保険代理店に出向いて手続を行なった。後は運転免許証を取得した折と、その他ディーラーから連絡があったらその都度ディーラーに出かけて諸手続を済ませていくだけで、車の購入自体はあまり難しくはなかった。車両登録手続は、殆どがディーラー代行である。

さて、こうして手に入れたミニバンであるが、後で気付いた長所と短所を少しだけ紹介しよう。

【長所】

- 荷物が想像以上に積み込める。3人くらいの来客なら、家族総出で出迎えに行けそう。
- 天井のモニターで、室外気温や出発点からの所要時間を見ることができる。

【短所】

- ブレーキが甘い。これは米国製の日本車にも言えることらしい。
- 車が想像以上にデカイ。左ハンドルに慣れるよりも、車体感覚をつかむ方が大変。

慣れればこちらでの運転はさほど難しくはないが、先日、何げなく我が家を出発して近くの Washington Blvd. 大通りに右折して出たところ、無意識のうちに左車線を走っていて、対向車が来て始めて気付くというドジを踏んだ。意識している間はいいが、無意識のうちにしでかすポカには要注意である。

多難な新生活スタート (2) **ここもある意味途上国と一緒に?**

一軒家での生活は、それなりに家具が揃えば快適である。ただ、船便で送った荷物が12月にならないと届かないという状況の中、入居後最初の3週間はいろいろなトラブルの連続だった。

(1) 「水が出ない・・・」

入居して最初のトラブルがこれ。入居2週間前にアーリントン郡水道局に電話を入れ、必要だと言われた書類も不動産会社から直接FAXで水道局に送ってもらった。にも関わらず、入居してすぐに水が来ていないことが発覚。しかもその日は日曜日。ダメもとで水道局に電話を入れたら案の定自動音声だったが、緊急連絡先をアナウンスしていたのでそちらに電話を入れ、その日のうちに水道栓を開けてもらった。後で聞いたら、不動産会社からFAXされた書類が、水道局内で1週間眠っていたんだとか。

(2) 三度目の正直だったケーブルテレビ (CATV)

世銀職員の方からテレビを購入したが、見れるのは民放の4局のみだったので、すぐにケーブルテレビ会社に電話して、CATVの設置作業のアポを取った。仕事との兼ね合いもあってやむなく夜6時~9時の時間指定をして、オフィスを早めに出て自宅で作業員を待っていたところ、最初の夜はすっぽかされ、二度目のアポも同じ時間帯を指定したら、今度は留守電に「暗くて作業できないから今日は行けない。」とのメッセージ。「それだったら最初から日没後の時間帯のアポを受け付けるな!」とは思ったものの、「ここは途上国なんだ。」と自分に言い聞かせ、今度は午前中のアポを入れて、ようやくCATV設置に至った次第。ネパール時代の読者はご存知かと思うが、私はテレビ関係とは相性が悪い。

(3) 屋根裏にネズミ出没で夜も眠れず

11月末のある夜、屋根裏を歩く足音に目が覚め、真っ青になってその後眠れなくなったことがあった。侵入者はネズミだった。一般論として、このネズミ(英語で mouse)は小さいのだが、あれは考えても大型のネコ並みのネズミ(rat)だった。翌朝オフィスでその話をしたところ、同僚のおばちゃま連中の間で騒然となり、「ratは危険だからすぐに駆除した方がいい。」とか、「どここの店でD-Conという薬を買うべきだ。」とか、いろいろアドバイスをいただいた。D-Conを使ったのが良かったのか、寒さがこたえる夜間に暖房を消したのが奏功したのかはわからないが、ネズミの大暴れは1週間ほどで沈静化した。しかし、時々屋根裏から響く足音は、まだ居座っている奴がいることを示している。

来月の予定

- 丁度家族も到着しましたので、来月は、家族の話題を中心にお送りしたいと思います。(浩司)